

和歌山県景観まちづくりポータルサイト「きのくに風景讃歌」

実施団体：特定非営利活動法人 市民の力わかやま（実施エリア：和歌山県全域）

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、世界遺産（文化遺産）にも登録され、これらを含めた和歌山県下の素晴らしい景観や神社・寺院建築の文化的価値などは多くの人を知る存在となっているが、和歌山県が提唱する“観光立県”にまでは至っていない状況である。また、参詣道跡である熊野古道周辺では世界遺産登録後、観光客の殺到により遺産そのものが影響を受けている状況にある。

そこで本事業では、和歌山県の景観条例に基づく景観形成やまちづくりはもちろんのこと、住民が普段の生活では見過ごしがちな周辺の景観や文化的な町並みについて様々な発見を通じて、自治体、住民そして観光客が一体となった景観形成や景観保全、まちづくりの促進に寄与することを目的とした。

地域課題

- 近隣県（京都府、奈良県）等と比較した場合、観光客入込数が劣っており、県が提唱する“観光立県”にまで至っていない。
- 世界遺産の登録後、観光客の殺到により遺産そのものが傷んでおり、景観保全の取組みが喫緊で必要となっている。
- 世界遺産以外に多くの観光資源があるにもかかわらず、埋没してしまっている状況にある。

目的・目標

- 県下の素晴らしい景観や町並みを広く発信するとともに、地域住民が情報提供主体となり景観形成やまちづくりを促進する。
- ポータルサイトを通じて、和歌山県の知られざる景観を発信することで、高野山や熊野古道のみならず県全体で観光客を誘致できるようにする。
- これらを通じて、景観の形成と保全を両立し、“観光立県”としての、観光客増加に寄与する。

<事業の経緯・背景>

地域住民が参加できる工夫を随所にこらし、“住民主体の景観情報発信”を実現

景観形成と景観保全を両立できるポータルサイト「きのくに風景讃歌」を展開

--事業の経緯・背景を教えてください。

和歌山県は、高野山や熊野古道などが、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されています。また県が制定した景観条例により、景観形成や保全の取組みに力を入れています。一方で、他の近隣県と比較すると、まだまだ観光客が多いとはいえ、観光資源は有しているのに、観光客増加へ繋がられずにいる点が課題として挙げられます。



(上左) 岩倉 俊夫氏 (上中央) 寺本 東吾氏
(上右) 津村 雅枝氏 (下左) 山本 智子氏
(下右) 梶谷 昭治氏

そこで、県内にある素晴らしい景観や町並み、建造物などの文化遺産について、情報発信・共有できるサイトによって景観の形成や保全、観光客誘致を促進しようと考えました。また、景観の情報発信そのものについては、地域住民が参加でき、より継続性を確保できる仕組みを用いました。

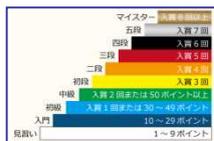


(左) 「きのくに風景讃歌」のウェブサイト
(<http://www.kinokuni-sanka.jp/>)

情報発信だけでなく、フォト投稿のインタフェースも有している。また、Google Mapsを活用して、地図上にそれぞれの見どころ、景観が表示されるため、観光客が観光ルートを検討する際に見やすい作りとなっている。

--それはどのような仕組みですか。

「ふるさとフォトグラファー」と題して、住民の皆様から和歌山県のすばらしい景色、文化、芸術などの写真を投稿いただく仕組みとしました。また写真を投稿することによりポイントを付与したり、毎月、フォトコンテストを開催しています。ポイントやコンテストの結果は、フォトグラファーとしてのランクとなるなど、面白さが増すような仕掛けにより、継続して投稿が行われるようにしています。また、写真に興味のある多くの住民に参加いただけるよう、県内各地で撮影会を開催したり、写真家・徳田直季さんによる写真教室を開催するなど、参加者を飽きさせないように随所に工夫を凝らしています。



(左) 「きのくに風景讃歌」でのフォトグラファースランク

投稿時のポイントとフォトコンテストの結果に応じて、フォトグラファーとしてのランクが格付けされるおもしろい仕組み。ランクに応じた会員証も配布され、差別化要素を可視化することで、参加住民の競争心を良い意味で煽り、継続的な投稿に繋げている。

--景観を情報発信する意義を教えてください。

景観は大切な資源であり、他に代えがたいものです。変わりゆく景観を記憶の中だけに留めるのではなく、歴史を感じられるアーカイブをつくること、そして価値を再認識しながら、住民自ら保全していく意識を醸成することが必要です。行政だけでなく、住民そして観光客が一体となり、和歌山県の景観を感じることで、これまでの歴史に触れ、風景を堪能し、そして今後の景観保全を実現していく、そんな環境が醸成できれば良いと思います。



(左) 天鳥海岸の褶曲構造のフォト
フォトグラファー 神保志志さん撮影

財団法人日本自然保護協会から、冊子やウェブページでの掲載依頼が来るなど、様々な方面から注目されるウェブページになりつつある。

他にも行政の広報誌に活用されたり、取材のオファーがあったりと、住民フォトグラファーの投稿写真そのものに付加価値が生まれている。

<利用者の声>

利用者の投稿写真が地域の景観形成と保全に繋がる仕組みを採用

ポイントランキング制など、飽きさせない仕組みや有識者との連携により継続力を高める

--ポータルサイトについて工夫した点を教えてください。
 誰にでもご利用いただけるように、見た目はシンプルにして見つけたいものがすぐ見つけられるように工夫しました。また高齢者の利用が多いので、慣れ親しんだインタフェースにすると同時に、Javascriptなどを用いたインタフェースは極力用いないようにしました。
 また、運用費用を抑制するために、当NPOで有しているICT基盤（仮想化基盤）上に構築することで、低コストなシステムの構築ができています。

--仮想化基盤の運用などは、ICTの知見がないと難しいと思うのですが。
 市民の力わかやまでは、職員全員が高いレベルのICTスキルを有しています。ICTを扱うNPOなので、当然といえば当然です。写真などのシェアはGoogleが提供する「Picasa」で、遠隔会議は「Skype」でなんていうことは日常茶飯事です。

--開発などは自らが行なっているのですか？
 はい。委託すると費用が高いため、ポータルサイトの改修作業など、すべて自前で行なっています。Facebook、twitter、GoogleMaps等との連携はもちろん、コンテンツすべてを自前で作成しています。CMSはオープンソースソフトウェアであるXOOPSを利用しており、こちらも無償で利用できるソフトウェアのため、費用がかかっていません。



(左)「みどころ紀州路」のページ
 随所にショートカットを配置するなど、一見ごちゃごちゃするページでも適切に目的のコンテンツにたどり着けるよう配慮されている。

--今後、改善していきたいポイントはありますか。
 早期にモバイル対応、スマホ対応をしていきたいと考えています。また、投稿写真が非常に多くなってきているため、少し分類を考えたり、同じような写真などは再整理する必要があると考えています。コンテンツにメリハリをつけ、今後も改善を続けて行きたいです。

--（利用者の声）フォトグラファーとして参加された方の声
 「ネット上で皆さんの和歌山を拝見できることが大変楽しみです。知らないところも多いので、感動させてもらっています。」
 「自分の写真がアップロードされて、励みになりました。」
 「ポイントランキングの制度は非常におもしろいです。」
 「載せてもらえるところがあるので、撮影しに行って投稿しようという張り合いになります。」
 など、多くの方から称賛の声をいただいています。

また、「身近で見ている景色を改めて見直す良い機会だと思う。投稿された作品（写真）を見て、新しい発見や感動がある。」や「まだまだ和歌山の知らない所や普段気がつかない場所があって改めて出かける場所があり、楽しみに見えています。」という、本サイトの設立目的に沿う声もいただいております、サイトの存在が日々大きくなっていることを実感しています。



(左)「ふるさとフォトグラファー」の募集チラシ
 ウェブでの募集だけでなく、募集チラシによる地道な活動も成功に繋がっている。

(右)「お宝写真」の募集チラシ
 フォトグラファーの投稿写真だけでなく、家のタンスに眠る貴重な写真などを募集。明治・大正・昭和時代の貴重な写真を今に伝えるアーカイブとしての役割も担っている。

--地域の有識者との連携もさかんと聞いています。
 前述の写真家の徳田直季さんをはじめ、魅力的な建物を紹介している中西重祐さん、最近では古絵はがき収集家の溝端佳則さんの協力のもと、和歌山の景観を紹介する「溝端コレクション」を公開しました。このように情報提供の支援者も住民にとどまらず、広がっています。今後も様々な支援のもと、コンテンツを増やしたいと考えています。



(左)「溝端コレクション」和歌山市電の古絵はがき
 貴重な古絵はがきが表す景観と、GoogleMapsを連携させることで、現在の景観と重ねあわせて想像することができるようになっている。

導入効果（アウトカム）と導入規模（アウトプット）

導入効果（アウトカム）※



新規の写真投稿件数
 （平成23年度：530件、平成24年度：583件）

前年対比 **110%**



和歌山県内を網羅したはじめての「景観・まちづくりのサイト」で、現在2600点以上の写真・コンテンツを収集しており、今後も成長し続けるサイトです。

導入規模（アウトプット）

<サイトページビュー>

平成23年度年間 : 221,186PV
 平成24年度年間 : 226,975PV

<ふるさとフォトグラファー数（新規）>

平成23年度 : 99名
 平成24年度 : 25名

※フォトグラファー数は退会者を除いた数です。

※導入効果はバランス・スコアカードの視点（「財務の視点」「顧客の視点」「業務プロセスの視点」「学習と成長の視点」）を用いて記載しています。
 バランス・スコアカード：組織の業績・効率を計測する評価手法であり、事業のパフォーマンスを4つの視点によって評価・分析する手法。

<事業成功のポイントと今後の課題・展望>

事業成功のポイントは、“コンテンツを更新する仕組み”の仕掛けに住民を巻き込んだこと
今後は、住民フォトグラファーの投稿写真に更に付加価値をつけていきたい

事業成功のポイント

事業成功のポイントは、“コンテンツを更新する仕組み”そのものに、フォトグラファーとして住民を巻き込んだことです。和歌山県内の様々な場所に在住するフォトグラファーが、その時その時の景観を投稿してくれることで、当NPOだけでは成し得なかった「リアルタイム性をもった景観情報の提供」を実現しています。

また当NPOは、インターネット市民塾など、様々な事業を展開していますが、今までに途中で終了している事業はありません。取組当初から事業の継続性を第一に考え、運用時におけるコストなども最小化した上で事業展開できている点が成功のポイントであると考えます。

今後の課題と展望

運用コストの削減は継続して取り組むべき課題ですが、限界があります。そこで、今後は本サイトの提供するサービスを軸として、収益構造化していきたいと考えています。

サイトで掲載しているフォトグラファーが撮影した画像は、一般の旅行雑誌や自然環境に関する学会誌などから、掲載写真の転載や使用許可などの問い合わせも多くいただいています。それだけ付加価値が高いということです。これらの画像提供にあたり、少額の使用許諾料を徴収して有償化し、フォトグラファーに還元していくことを描いています。これによりフォトグラファーから投稿される写真が増えると共に、その質も向上していくのではないかと考えています。

また、「紀伊山地の霊場と参詣道」がまたがる奈良県・三重県とは現在連携ができていません。今後は和歌山県内に限らず、観光広域圏としての取組みも必要になると考えます。

導入概算費用等

本システムを導入した場合の概算費用

- ・導入費用
 初年度：約1,200万円（内訳：構築費約400万円、機器等約30万円、運用費約770万円）
 次年度：約1,800万円（内訳：バージョンアップ約300万円、機器約30万円、運用費約1,470万円）
- ・運用費用
 150万円（主に人件費など）



XOOPSなどのオープンソースソフトウェア、仮想化基盤などの活用により既存資源を有効活用することでイニシャルコストを最小化

事業実施体制

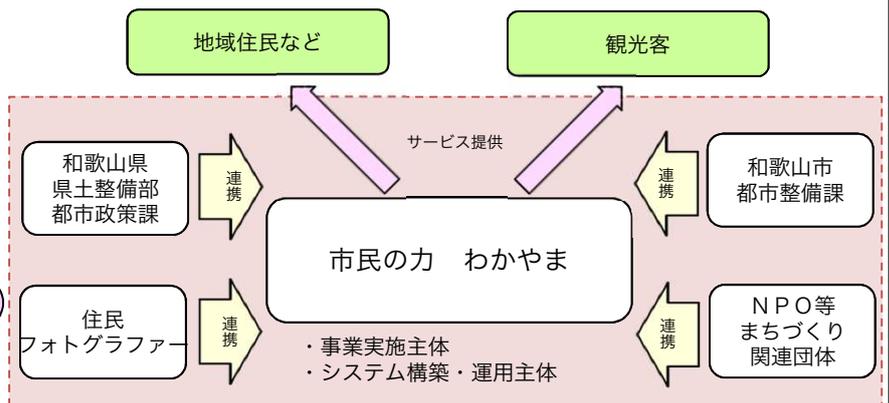
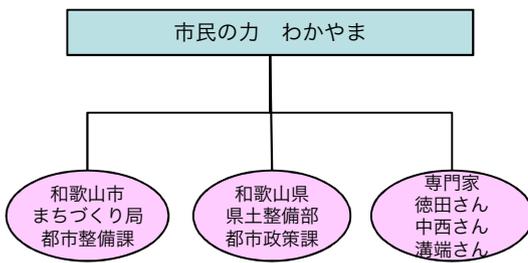
事業主体：特定非営利活動法人 市民の力わかやま
サービス提供対象：地域住民及び観光客

事業実施体制

事業実施相関図

凡例

□：実施主体等 ○：協力団体



<事業主体の横顔>



特定非営利活動法人 市民の力わかやま
〒640-8215
和歌山市橋丁21番地 N2ビル3F

インターネット市民塾の運営を中心として、ICTを活用した地域情報の収集発信、地域づくり・人づくり・まちづくりの支援など様々な事業を行い和歌山県を元気にしたいと頑張っています。

<本件に関する問い合わせ先・導入検討・視察の相談先>

特定非営利活動法人 市民の力わかやま

電話 073-428-2688

e-mail:info[atmark]shimin.or.jp

※スパム対策としてメールアドレスを一部変更して記載してあります。
eメールを御送付の際は、「[atmark]」を「@」に変えてご利用ください。

調査協力：和歌山大学 佐藤 周准教授